

連載
27

ピアノと部活に駆け抜けた夏

今年新設された Jr.G 級(15 歳以下)で、見事第 1 位を受賞した及川まりやさん。ショパンのバラード 4 番という難曲を弾きこなしただ川さんは、まだ中学 1 年生だ。「何としてもピアノと部活

と両立させたい!」人一倍の情熱とエネルギーは、一体どこから湧いてくるのか。その素顔をご紹介します。

新設 Jr.G 級に参加、あの憧れの曲に挑戦

「まりやちゃん、Jr.G 級受けてみない?」

三月、今年は何のコンクールに挑戦しようかな、と検討中だった私は、平間先生のこの一言に飛びつきました。なぜなら、二年ほど前から弾きたくてしかなかったショパンのバラード四番を弾くチャンスだったからです。初めて CD でこの曲を聴いた時は、出だしのフレーズからもう背中がぞくぞくして、曲が終わった時には思わず一人で拍手をしてしまいました。自分の好きな曲で自由にプログラムを組んで挑戦出来るなんて、すごい魅力でした。

それから、書類審査の予選が通ればあとは八月末の本選に目標を絞って、じっくり練習が出来るのも自分には合っているな、と思いました。私は次々とコンクールや演奏会に参加するよりも、ステージの数は出来るだけ少なくして、集中して本番に全力投球するのが好きだからです。上原彩子さんのピアノリサイタルで聴いたチャイコフスキーの四季「炉ばたにて」も心に残る素敵な曲だったので、「バラード四番」と組み合わせて私のプログラムは決まりました。ところがそれからわずか一ヶ月後、書類選考合格の知らせが入ったにもかかわらず、私は大きな悩みの中にいたのです。

部活との両立を真剣に悩んだ末に

中学校入学と同時にふりかかった問題「部活」。

私は小さな頃から外で遊ぶのが好き、つまりスポーツが好きで、その中でも特に走る事が好きだった為、陸上部に強く惹かれてしまったのです。

「走りたい... 思い切り... でも」。私の中学は駅伝の伝統校。陸上部のトレーニングはとても大変な事を知っていました。大切なピアノがめちゃくちゃになる事がこわくて、何度も部活を諦めようと思いました。でも、どうしても走りたいという気持ちは変えられず、毎日夜遅くまで泣きながら悩み、気が狂いそうになるくらい考えた末、私は入部を決めました。「ピアノは絶対やめない、頑張って続けて行く」という決心をして。

それからの毎日は、目が回るほど忙しくなりました。あまりの忙しさに疲れきってぐったりしてしまふ事もありましたが、それでも「絶対に私はバラード四番を弾くんだ!」という思いに奮い立っていました。

やがて夏休み。午前中は部活仲間と思い切り走り、午後はもう必死でひたすらピアノを弾き続け、これまでの遅れを取り戻そうと頑張りました。



▲宮城県大会優勝。駅伝部のメンバーと。前列右端が私。



▲登山者のような毎朝の登校風景。これから朝練です!!

夜は山盛りの学校の宿題。遊ぶ時間も、テレビを見る時間ありませんでしたが、ピアノと陸上、自分の大好きな事に全力で打ち込む事ができて、充実した毎日でした。

ピアノを弾く喜びでいっぱいだった本番

現在師事している平間百合子先生には、レッスンのたびに貴重なことを沢山教えて頂きました。曲の難所にぶつかってしまった時や、どう弾いて良いのかわからなくなってしまった時には「自分の感性を信じてね。うつくしいと思う事だけしてね」「中学一年生の今しか弾けない、まりやちゃんだけのバラードを目指しましょう」と、いつも前向きに励まして下さいました。その言葉に私は本当に救われました。

そして迎えた本番。8月25日。少し気持ちが高ぶっただけで、落ち着いて出番を待つことができました。ステージの上でピアノを弾いている時は最高の気分でした。ピアノの音と共に色々な思いや光景が心にわきあがり、目の前に映り、本当に楽しかったです。弾き終えた時は嬉しくてすぐ興奮してしまいました。「今までピアノをやってきて本当に良かった。諦めずにこの曲を一生

懸命練習してきて良かった」と思えた瞬間でもありました。



◀自宅での練習。集中したい時は昼でもカーテンを閉めることが多い。



▲帝国ホテル表彰式会場。「金の星門下生」のみんなと。

コンペ後は、駅伝全国大会に全力投球

コンクールが終わるとすぐに今度は駅伝シーズンが始まり、私達のチームは仙台市、そして宮城県大会と優勝し、全国大会の切符を手に入れました。私はどちらの大会もアンカーで走りましたが、先輩達は私が苦しくならないようにと必死に走ってリードを広げ、トップでたすきを渡してくれたのです。皆で大騒ぎして喜びあいました。ソロピアノとはまた違ったチームプレーの喜びを知った、いい経験でした。

私の心の中では、将来進みたい道はまだ枝分かれしていますが、ピアノをずっとずっと大切にしたい思いは強く、国際コンクールやオーケストラとのコンチェルトの夢も持っています。ピアノと部活の両立はとても大変な事ですが、いつもバランスを大切にしながら、自分らしくこれからも頑張ってゆきたいと思います。

及川まりや Mariya Oikawa

Profile

90年生まれ。4歳で「金の星ピアノ研究会」入門。平間百合子先生に師事、現在に至る。ピティナ・ピアノコンペティションにて、98年A1級金賞第一席。99年B級ベスト賞。00年C級ベスト賞及びデュオ初級奨励賞。02年E級金賞・審査員特別賞。03年Jr.G級優秀賞第1位。01年全日本学生音楽コンクール東京大会小学生の部第2位。99年「石川県七尾市ヤングピアニストの夕べ」出演。99年及び03年「ピティナ入賞者コンサート」出演。02年「全日本学生音楽コンクール入賞者コンサート」出演。

